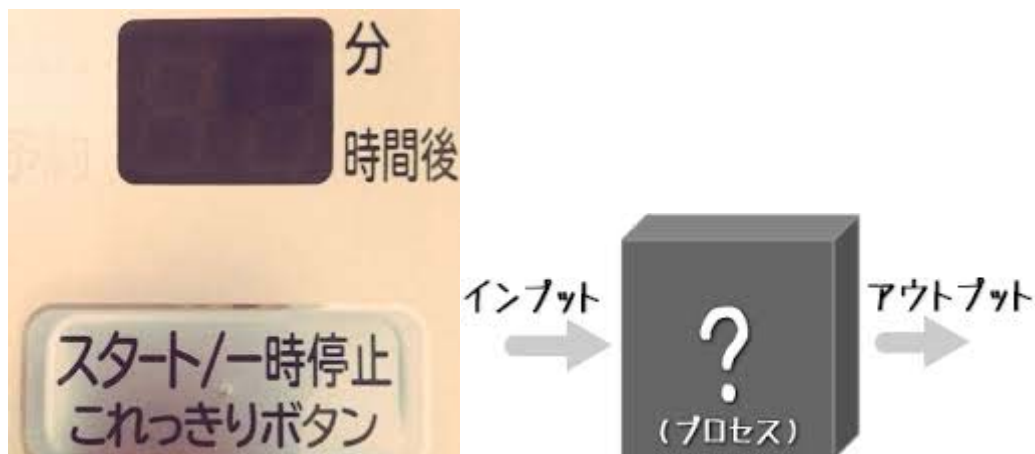


2017/3/22

(日々雑感 56)



人と会って話をし、可能な限り理解を得て、出来る範囲で仲間になって貰う行脚の旅を昨日もしました。おおよそ3時間くらいだったでしょうか。

話をすると、相手の方から新しい視点を得ることができ、方や自分としても頭の中の整理ができると共に、カタルシスにもなるので、極力話をするようにしています。少なくとも今の生活の中で、おかしな考えを抱かないために、あるいは孤立しないためにも是が非でも必要な事柄だと思っています。

そうした中、人と話をすることで思わぬ副産物を手に入れることがあります。昨日した話とは直接関係はないのですが、回り回って自分が過去にした事柄の、現時点から見た再評価が出来たりすることも、その中の一つかもしれません。

昨日の場合は、自分の過去にした事柄の、良い再評価ではなく、悪い再評価でした。

今日は、そのお話をちょっとしようかと思えます。

「すごいことを簡単に」

「お手軽、簡単、便利」

実はこれ、今から25年ほど前の我が国に於けるインターネット黎明期に、当時テレビの商品開発に於いて、完全な閉塞状況に陥っていた業界が、全く新しい切り口である当のインターネットをテレビに取り込もうとした折に合言葉というか、商品開発のキーワードにした言葉でした。

今でこそインターネットはそれこそコモディティアイテムですが、25年前の当時は一般の人にはまだまだ耳慣れない「アカデミックアイテム」だったので、そのアカデミズムの効用をなんとか租借してお茶の間に引き入れることで新しい需要を喚起しようとしたのです。

とにかく時代の変わり目で、古いタイプの商品開発で、社長表彰を得るほどの成功をした経験を持つ自分には、却って理解をしたくない側面も有り、それやこれやでうつ病になりかけ

ていた折も折、いきなりこの「新コンセプト」の工場内に於ける商品開発部隊にニーズ側代表という名目で組み入れられたのです。

そのせいもあって罹患仕掛けのうつ病が完全に最悪化し、泥沼の状況に陥ったのですが、そんな中、それでも必死に上述の「お手軽、簡単、便利」を試行錯誤し追いつけました。そうして、その考え方が「絶対的に良いこと、価値のあること、当然のこと」のように無意識無批判に思いなしてしまったようです。

「それを理解できない、提供できない、租借して落とし込めない自分はバカだ」と自分自身を規定してしまったのです。

しかし、最近世の中を歩き回って観察をする機会を凶らずも得てみると「おやおや？」という思いに駆られはじめたのです。

昨日は、話の中で突如、過去の経歴を相手の方に話す場面があって、その折「お手軽、簡単、便利」と「おやおや？」が偶然結びついたのです。

確かに家電の歴史を見ると、電気釜にしろ、電気洗濯機にしろ、殆ど全ての家電製品が、火をおこして釜でご飯を炊いたり、洗濯板で手もみ洗いをする重労働から主婦を解放した「お手軽、簡単、便利」であることは一目瞭然で、決して悪いことではありようもないわけです。しかし「重労働からの解放」までは良かったのですが、それがあまりにも敷衍されすぎた気来を感じたのです。

それは家電製品の範囲にとどまらなかったのではないか？

まず、食品もそうになっています。インスタント食品です。レトルトとも言い、電子レンジでチンとも言います。

あるいは、先のインターネットで言えば、検索エンジンによる調べ物、予約、注文を手元でポン、にとどまらず、今ではそれが、ますます進んで、バーチャルリアリティやビッグデータ、ディープラーニングをかましたAI（人工知能）にまで広がり、進化しています。

ここまで来ると「お手軽、簡単、便利」どころか、殆ど「代行」「代用」

あるいは更に進んで「手抜き」「端折り」「あなた任せ」にもなり、更にその先「ひとは何もせずにその効用効果だけを得る」だけの生活乃至は生活態度になっている。

それが当たり前になり、仕事や家庭生活に於いても、全くの無意識な思い込みで「ポンとボタンを押して」良い結果や幸せが即座に訪れないのは「おかしい」「いつもと違う」「不合理、不条理だ」になっているのではないのか？と思いはじめたのです。

「手間暇を掛ける」「努力する」「いろいろ試して試行錯誤する」というステップが完全に視界や意識から覆い隠されて、見えなくなっている、それに気づくことすらない生活、価値観の今。現代。

「これっきりボタン」「たった一つでなんでも OK」

何かを組み合わせた、組み合わせによって工夫したりする必要の全くない世界。

無論、開発側は大変な苦勞と手間暇と努力、試行錯誤をしているはずですから、開発側とユーザー側の脳使用格差は、所得格差、男女格差の比ではないような気がします。

しかも「お手軽簡単便利」であり「これっきり、たったひとつで」「すごいことを簡単に」の中身が一部のしか知らない完全な「ブラックボックス化」している怖さ。

全ては快適で便利で心地よく上手くいっている。何の問題も無い。

が、ある日あるとき、そのブラックボックスに「悪意が組み込まれたら？」

ある日突然、破局と破綻がやってくる

プログラミング内容を知っている人以外、もう誰にも止めることが出来なくなっているかもしれません。われわれはその人達に命と生活と財産を既に握られているのかもしれない。

結構怖い世の中に既になっているのかもしれない。

そうならないためには、最低限、やはり手手間暇を惜しまず、自分のアタマとところと手足を可能な限り使い、動かして、何でも自分なりにやってみる必要性をかなり強く感じる今日この頃の日々雑感です。

いざといときのために、アタマとところと身体の準備を常に怠らない。肝要なことだと思う次第です。